

SPIT 'EM OUT! "it's absolutely raw"

- This paper gives y'all hip hop headz the real words from the real scene... -

feature interview

DJ WATARAI

進化し続けるDJ WATARAI。人柄溢れるポジティブなインタビューをチェックしたら、迷わず“The Finest”へ足を運ぼう!

■ “The Finest”へ2004年の9月に加入しましたが、当時と現在とで気持ちの面での変化はありますか?

最初の頃は、DJの大先輩とまた一緒にプレイすることになるところもあったし、HASEBEくん以外のDJとやる初めてのレギュラーパーティーということもあったので、毎週緊張してやっていたところがありましたね。今もちろん緊張してやってますけど。

去年1年やってみて一番強く思うのは、自分で言うのも何ですが1年前と比べて自分のDJはすごく上手くなったなというか、すごく良くなったなと思うんですよ。プレイスタイル自体はそんなに変わってないんだけど、レギュラーパーティーということでかける曲も毎週毎週自分で探さなきゃいけないってのもあるから、選曲の幅も増えたり構成力なんかもついたかなと。時間的にも今までやってきたレギュラーとは比べものにならないくらい長いから、1晩中モチベーションを保つてのも大変で。でも、そういう緊張感を毎週繰り返していきうちに逆に自分のモチベーションとかバイブスが良くなってきて、そういう意味では1年前に比べて自分のDJが良くなってきているんじゃないかな。自画自賛ってわけじゃなくて、あくまで1年前に比べての話で(笑)。

“The Finest”って、元々KEN-BO君がすごくいい雰囲気を作ってくれてるのがあったんで、自分もそのいい雰囲気を残しながら自分ができることをやろうと。それに、以前と比べると割と好きなことがやれてるんですよ。自分がやってみたくとか、試してみたくとか。そういうところで生まれる新たな自分のルーティーンみたいなものがあって、そういう意味でもやり甲斐がありますよね。気合いも入ってます(笑)。そう言えば、去年は今までで一番クラブプレイのことを考えてましたね。トラック制作は気が向いた時に作り溜めちゃうから、普段はわりとクラブプレイのことを考えてはいるんですけど。

■ 実際にお客さんを見ていて、感じることはありますか?

金曜日に関しては、お客さんが曲を良く知ってるし割とやり易いですよね。毎週来てくれるお客さんがいて、週末のパーティーのわりには、いい意味で週末っぽくない雰囲気の時もあったりとか。かと言って初めて来るお客さんと常連のお客さんのバランスはちゃんと取れてると思うし、常連のお客さんがいい雰囲気を作ってくれてたりするから。初めてのお客さんもその雰囲気に入り易いってのがあると思いますね。

DJをやっていると、2、3曲知らない曲をかけちゃったりするとお客さんって突き放された感を感じてひいちゃう時ってあるじゃないですか。それが“The Finest”にはないですよ。それに、すごく新しい曲をかけたとか、古すぎて今の若い子が知らないよう

な曲をかけたりしてもちゃんと反応してくれるんで。やり易いしやり甲斐がありますね。もっと色々な曲をかけていこうと思ってます。

■ 最近のクラブシーンや音楽シーンを見ていて感じることはありますか?

難しいことを考えると色々ありますけど、あんまり考え過ぎないでやりたいなと。DJをやっているとダメだと思ってた時って、だいたいは自分が楽しくDJできてない時だったり、ネガティブに考えてDJしてる時だったりするから、オレは自分のノリが一番大事なんだなって思うんですよ。制作に関しても、「こういうのが来るから」とか「こういうのはダメだから」とか、そうやって色々難しく考えながらやるんじゃないかなって。難しく考えてその通りに出来たら、それはそれですごくことだとは思いますが、なかなかそういうふうにはいかないと思うし。難しく考えないで、自分の中のノリみたいなのを大事にした方がいいんじゃないかなって思ったりしますね。

■ 若手のDJたちにアドバイスはありますか?

オレがDJをやった時は、いわゆる先輩ってあまり居なかったから、割とやり易いと言えばやり易かったんですよ。でも、今の若いDJたちからすると第一線でやってる上の人達が多いから、その中で自分の色を出して食い込んでいくってすごく大変なことだと思うけど、その割には良くやってるなって思いますよ。

オレが“HONEY DIP”を始めた頃って、そういうの無かったじゃないですか。HIP HOPのイベントってほとんど無かったし、たまたまそういうタイミングだったから出来ただけで、そういう時代だったからできたんだと思うんですよ。そう考えると、今の若いDJたちは一生懸命やってるんじゃないかって思いますよ。

オレがA-KAYとかMOTOYOSIくらいの歳の時って、大学にも行ってたし、そんなに一生懸命DJやってなかったんじゃないかなって思いますよ(笑)。“HONEY DIP”でしかDJやってなかったし。でも、彼等はマメにMIX CDも出してるし、DJもたくさんやってるみたいだし、いいんじゃないですかね。頑張ってると思いますよ。

■ では、若手のラッパーで気になっている人はいますか?

けっこう居ますね。DELIのときのMIK-RISもMARS MANIEも頑張ってるし。あと、関西にも割といいラッパーが多いですね。DST廻りなんかに、かっこいいヤツ居るんですよ。地方に行った時に一緒になったり遊びに来てくれたりするんですけど、めちゃくちゃカッコイイですよ。

なかなか仕事では絡むタイミングが無いんですけど、自分一人でアルバムを作る機会があれば、是非一緒にやってみたいですね。今



はなかなか若いラッパーが自分達だけで作品を出せないでしょ。だから、例えばREMIXとかでラッパーをつけてもいいとか、そういう話があればやってみたいですね。最近はあるけど、難しいところはあるけど。

■ 制作の予定は?

2/15に出るDABOのアルバムで何曲かやっていますね。あと、今年はOSUMI君と二人でアルバムを出そうと思ってて、その制作中です。夏までには出したいと思ってるんで…。今頑張っています。

■ 先日、久々に“HONEY DIP”を開催しましたが、感想は?

やっぱり面白かったですね。“HONEY DIP”ってお客さんが賑やかなんですよ。全体的にザワザワしてるんですよ。音楽も聴こえるんだけど、人の話し声も聴こえるっていう。あのザワザワ感がいいですね。いい意味でいい加減なイベントなんで(笑)。また機会があればやりたいですね。

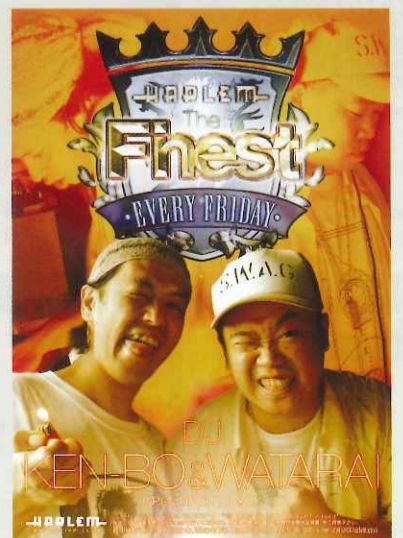
■ では、今年の意気込みは?

今年はいろんな意味で賑やかにやりたいですね。パーティーが盛り上がってレコードもいっぱい出て、なんか盛り上がってるな、みたいな年にしたいです。“The Finest”はここ1年で雰囲気も更に良くなってきてるし集客も伸びてきたと思うんで、プラスαやれたらなと。週末というのもあるしせっかくのクラブイベントなので、純粋に今よりもっと盛り上げたいという気持ちはありますね。質のいいプレイというのは大前提にあるけど、お客さんに楽しんでもらえるパーティーにしていきたいですね。だいぶ慣れてきたというのもあるので、色々試していきたいです。進化したDJ WATARAIを期待して下さい(笑)。

■ 最後に、読者にメッセージをお願いします。とにかく、“The Finest”はすごくいいパーティーなんで、金曜日のHARLEMへ是非一度足を運んで下さい。一緒に飲みましょう!!

DJ WATARAI's "Power Play Songs" @ "The Finest"

- "TALKIN' ABOUT" AMERIE
- "SHAKE feat. PITBULL" YING YANG TWINZ
- "LIKE THAT" MEMPHIS BLEEK
- "STAY FLY feat. YOUNG BUCK, EIGHTBALL & MJG" THREE 6 MAFIA
- "CAN'T I HAVE IT LIKE THAT ? feat. GWEN STEFANI" PHARRELL



The Finest
EVERY FRIDAY NIGHT

24時までにFLYERを持参すると¥1,000/1Drinkで入場できる。パースター特典もアリ! 詳細はP3をチェック!